

## 平成28年度第2回浅口市総合教育会議議事録

1. 招集日時 平成28年10月27日(木)
2. 場 所 中央公民館第1会議室
3. 開 会 午後2時30分
4. 閉 会 午後3時30分
5. 出席者 市長 栗山康彦 教育長 中野留美  
教育委員 山田篤 教育委員 原田玲子  
教育委員 中務美保子 教育委員 藤澤弘幸
6. 説明のために出席した者の氏名  
教育次長 榎田忠 教育総務課長 石田康雄  
学校教育課長 今井豊 こども未来課長 川手泉  
文化振興課長 小山朋子 生涯学習課長 清水真  
教育総務課 高橋佑輔(事務局)
7. 議事の概要  
教育次長 平成28年第2回浅口市総合教育会議の開会を宣する。  
次第2 市長挨拶について  
市 長 平素から教育行政に大変なご協力・ご尽力を賜り、感謝を申し上げます。  
この総合教育会議は、市長と教育委員会が十分に協議、調整できる場として位置づけられているため、忌憚のないご意見をいただきたいと思う。  
教育次長 次第3 協議題について  
浅口市総合教育会議運営要綱第3条の規定により、市長に議事進行を求める。  
市 長 浅口市総合教育会議運営要綱に基づき、議事進行を行う。  
協議題 学校指導體制の在り方について  
最近の子どもの傾向や各学校支援員の役割・効果、特別支援教室等について、事務局に説明を求める。  
学校教育課長 お手元の「次世代の学校指導體制の在り方について」という資料の1ページ目をご覧ください。  
これは、学校を取り巻く現状と、今後どうあるべきかをまとめたものになる。  
当市でも、この資料に記載しているように特別支援教育の部分の比重が大きくなっている。  
それから、家庭の経済的な事情に左右されない教育として、子どもへの貧困対策も今後より一層必要になってくると思わ

れる。

現在、この対応として、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーといった専門職が各学校から自宅へ訪問し、学校を越えた専門的な知識を基に子どものケアに当たっている。

また、いじめ・不登校に関しては、登校支援員などの働きによって、軽度なうちに対応できているところだ。

なお、外国人児童・生徒等の支援については、喫緊の課題としてはないが、いずれはこういう事案も出てくることが考えられる。

次に「浅口市の学校指導体制の在り方について」という資料をご覧ください。

当市では、小学校77クラスのうち14クラス、中学校30クラスのうち6クラスが特別支援学級となっている。

特別支援学級に在籍している児童・生徒の比率は、小学校で3.2%、中学校で2.6%になる。ただし、障害や診断等があるが特別支援学級でなく通常学級に在籍している児童・生徒もあり、その比率は、小学校で12.4%、中学校で5.6%になる。例えば、小学校において、特別な配慮が必要と思われる子どもは、全体の約16%を占めることになる。

続いて、不登校に関して、長期欠席者（休んだ日数が30日を超えた児童・生徒）の数は、小学校で18名、中学校で22名であり、そのうち、不登校者の数は、小学校で6名、中学校で21名となっている。

こういう状況ではあるが、資料に掲げている人的支援により成果を上げ、教員の負担軽減につながっているところである。また、ALT（外国語指導助手）も1名増員していただき、幼稚園・保育園も含めた英語教育活動ができるようになった。文科省も、今後色々なところの力を借りつつ、スタッフも多種多様にそろえていくよう示しているが、当市では、すでにいくらか先駆けて取組ませていただいているため、ありがたいと思う。

市長 ただいま事務局より説明があったが、学校指導体制の在り方について、何か質問はあるか？

山田委員 児童・生徒の現状について、特別支援学級在籍という子どもたちは把握できていると思うが、通常学級に在籍については、はっきりとわかっている数になるのか？昔は、なかなかわか

- 学校教育課長 らず、一緒のクラスにいてもわからない状態であった。  
調査の際に学校側が捉えていることが多く、現状では、診断は出ているが通常学級で学習させたいという保護者の願いで通常学級へいるという状況である。
- 山田委員 これ以外にはいないということか？  
学校教育課長 潜在的には、まだいると思われる。
- 市長 ほかに質問はあるか？  
なければ、次第4の「その他」について何かあるか？
- 中務委員 昨年度の会議の際に、幼稚園と教育委員会を繋ぐ指導主事のような人的支援を依頼したが、今年度、子育てコンシェルジュを増員していただき、本当にいい具合に回っているのではと思う。ぜひ、そのお礼を言いたいと思う。
- 山田委員 市長の意見をお伺いしたいが、中学校になると部活があり、この部活指導に非常に時間を広く取られ、また責任も非常に多くなるということで、全国的にも話題になっていると思う。中学校では、部活指導に時間が取られて、生徒の指導が不十分な感じが見受けられる。部活指導は、教員がすべきだが、場合によっては、この支援員の方にできる範囲でお願いできれば、多少先生の仕事の助力になるのかなと思うが、市長のお考えをお尋ねしたい。
- 市長 私も同じ考えを持っている。先生も放課後に指導されたり、土曜日も出てきたり大変だろうと思う。  
なかには、ボランティアで指導してくださる人もいらっしゃるのですが、その輪がもっと広がればと思う。  
積極的にそういう人を探してはいきたいが、なかなか進んでいない現状である。  
また、先生の負担を軽減させてあげなければと、以前から思っている。
- 教育長 市長が言われたように、やはり人を探すことが難しい。  
県も運動部活動支援員派遣事業というものがあり、それは計画しているが、その時間帯が。  
部活をしているのは、放課後の短い時間帯、土・日になるので、本当に適切な人が入ってくれればと思う。  
ただ、部活動が技能面だけではなく、精神面など色々なことが、子ども達に必要なになるので、そういった面も適切な人を探していきたいと思う。
- 市長 その他に何かあるか？

原田委員 貧困家庭について、世間でも色々増えているが、浅口市ではどう把握をし、対応し、考えているのか？

市長 来年度、私が集中的に取り組みたい中に、貧困対策と発達障害対策のことがある。

貧困に関しては、健康福祉部と教育委員会で連携を取りながら、こういった形で貧困家庭の方をサポートできるかを検討している。

もう一つは、発達障害についてですが、先ほどの資料で特別支援教育の配慮が必要な児童・生徒の比率が、小学校で約16%、中学校で約8%だった。やはり、進級するまでに何かしらの兆候があると思う。だから、主に考えているのは、小学校へ上がるまでに、きっちりと専門家を付けて、少しでも落ち着いて勉強ができる環境を整えることである。

貧困に対して、今、どのようなサポートをしているのか説明を。

学校教育課長 (就学援助について説明)

市長 貧困対策には、解決策としてお金の援助になってしまう。

それ以外で、どうあるべきなのか、私自身わからない部分があるので。

原田委員 今はないと思うが、両親がいなくなり、子どもだけ残され、食べるものもなく、結局、他人のものを取って食べたりしていたこともあった。そういうことを支援するには、食事。

NPO 法人でも何か対応できないかなと思う。

学校側としては、一応、就学援助で対応しているので。

市長 食べ物に関しては、NPO だったり、ボランティア団体、立ち上げたいという組織も市内にいくつかあると聞いている。ただ、今のところ具体的なことは進んでないが、どうあるべきかということを十分相談して検討しなければと思う。

また、発達障害の子どもの方策に関しては、その保護者の方とも意見交換を行った。そこで、お話をお聞きしたところ、突然大声を出したり、物をぶついたりなど色々なケースがあった。そういうケースは、官が見てあげないという風に余計に強く思った。

原田委員 笠岡のあたりに、そういった発達障害のある子の親の会のようなものがあり、定期的に居場所をつくってくださると聞いたことがある。

市長 笠岡学園がある。

金光でやっているが、そこは診断書を持っている方が対象。診断書を持っていない子どもたちについても、そういう居場所を作ってあげないといけない。引きこもってしまうこともあると聞いた。

原田委員 発達障害を診てくださる医師も非常に少ないそうだ。順番待ちで、なかなか診てもらえないとも聞く。

教育長 今、2つのことを就学前の発達障害のことで考えたいと思う。まず、その子どもを持つ保護者をどういう風にして相談する機会やお互いに話す機会を持つかということが一つ。二つ目は、子どもをどういう風に教育していくかになると思う。

子どもの方は、笠岡学園の名前も出たが、療育といった部分が受けられるようになれば良いと思う。

それから、今言った居場所を保護者と一緒に作り、保護者同士が話もできる場を持つという両面で考えていく必要がある。

市長 今、浅口市には居場所がない。

まず、居場所を作ることは容易だが、そのソフト面について、皆さんの意見も聞きつつ、福祉部門とも一緒にやるよう言っている。

中務委員 (発達障害が) 3歳児検診などの検診で見つかることが多い。そういうところで、やはり連携が必要だと思う。

また、先ほど言われたように、親自身の居場所がない。

保育園などに通っていれば、まだ良いが、そうでない場合には、一人抱え込むようになるかもしれない。

相談できるところに上げられるようなシステムを作るか、どこかに部屋を作って、いつでも訪問できるようにするか。

教育長 先ほど言われた療育や発達障害などのグループは、福祉部門が実際に進めている部分があるので、さらに充実させるよう連携をとっていきたい。

市長 貧困対策について、他にないか？

教育長 経済格差が学力の格差になることが、一番子ども達にとって将来が見通せなくなるため、学級アシスタントや放課後学習支援員を配置することで、いくらかその学習する場を確保してあげられる。(経済的な理由で)塾に行けない子もいるだろうし、そういう子ども達を救ってあげることも教育委員会の役割かなと思う。

常々、市長が教育は未来への先行投資だと言ってくくださるの

で、そこは教育として継続していければと思う。

市長 未来への投資は、今、貧困や発達障害の方のだけ言ったが、学力向上 No.1 プロジェクトでも、新しいことに次々と挑戦していきたい。

他に何かあるか？

教育次長 事務局のほうはありません。

市長 全般を通して何か質疑はあるか。

構成員 特になし。

市長 平成28年度第2回浅口市総合教育会議の閉会を宣する。